

産建文教常任委員会

白鷹高等専修学校存続に向けて働きかけを

12月10日に所管事務調査並びに白鷹高等専修学校の現地調査を行いました。説明事項と主な質疑内容は次の通りです。

①「一般財団法人白鷹町アルカディア財団の経営状況について」

委員 豪雨災害による通行止めの影響は。

当局 災害直後は客数が激減したが、看板設置による迂回誘導などにより、宿泊客、入湯客は、なんとか昨年と同水準となっている。パレス松風の法面崩壊箇所は、現状よりも法面の強度を上げる考えである。

委員 10月から12月の売り上げの状況はどうか。

当局 例年、冬期間は経営的に厳しい。新たな取り組みとして、宿泊プラスαのプランなどを考えながら努力している。

②「小中学校の統合の準備状況について」

委員 鷹山小学校では特色ある教育が行われているが、統合に向けてどう考えていくのか。

当局 学校でどういうものを引き継ぐかを検討している状況である。

③「白鷹高等専修学校の整備状況について」

委員 他市町への働きかけ等についてはどのような状況か。

当局 長井西置賜1市3町の自治体で存続に向けて努力をお願い申し上げているが、それぞれの財政状況を踏まえる必要がある。専修学校の存続に向けて、利用者の動向も注視していかなければならないと思っている。



白鷹高等専修学校現地調査

○産建文教常任委員協議会
11月27日開催の産建文教常任委員協議会における、説明事項と主な質疑内容は次の通りです。

「統合中学校の準備状況について」

委員 社会体育施設として武道館を整備する予定とあるが、管理はどが行うのか。

当局 今のところは、主たる管理を学校にお願いしたいと考えている。

委員 夏場の通学や休日の部活動等での自転車使用を認めるのか。

当局 基本的には蚕桑・鮎貝の生徒はスクールバスで対応できるように検討している。自転車の使用については、まだ整理できていない。両校の校長、地域部会の方々と協議を進めながら整理したい。

委員 スクールバスの乗降場所、車庫整備の考え方は。

当局 生徒については、ロータリー付近でのバスの乗降となる。当面は車庫なしで、適切な場所についての検討を行いたい。

委員 登校時にバスの往来が激しくなると思われるが、大丈夫なのか。

当局 新たに整備する駐車場の利用も考えられるが、学校到着時刻を調整しながら、できるだけ混雑しないよう対応したい。

委員 用地補償の具体的内容は何か。

当局 ホップ組合所有の車庫、倉庫のほか、立木やブロック塀などの物件移転を見込んでいる。

委員 武道館は27年度整備ということだが、武道の授業実施に支障は出ないのか。

当局 学校では、年度後半の授業実施を考えている。10月、11月頃、最悪でも3学期に授業を組むことができればとのことなので、工事スケジュールを検討したい。

その他、7月豪雨災害の対応等について説明を受けました。